

Viator

VOL.022



(イラストはH・Aちゃん)

新たな飛躍のための新年にあたり

主任司祭 ウィリアム神父

北白川聖ヴィアートル教会の兄弟姉妹のみなさま、
私たちは楽しいクリスマスのお祝いの後に、新年への道に向かいます。小教区は御降誕をお祝いすることによって、私たちの間に到来された救い主の誕生を祝います。

聖堂の飾り付けやミサの歌の準備など、主を「飾る」ことにご尽力いただきましたみなさまに深く感謝申し上げます。これらのことはみなさまがどれほどイエス様に愛着を持っているかを示すものです。このような良い心を私たちの内で育てていきましょう。このような行いは福音を日々の暮らしのなかに生かすもので、この小教区共同体に生きているキリスト教的な兄弟愛がどれほど正しいものであるかを伝えるものです。

教会役員として2年間の任期を終えられましたMさんとNさんにとりわけ御礼を申し上げたいと思います。お二人はこの教会がうまく運営されるように、エネルギーを注いでくださいました。お二人が協力者として、また役

員会のメンバーとして活躍してくださいましたことを私はたいへんに嬉しく思っております。

Nさんには役員会の一員として小教区の事務室が重要でまた貴重な改革をおこない、よりよく運営されるために多大のご支援を頂き、本当にありがとうございました。全能の主がNさんを祝福し、その願いにもまさる多くの恵みを与えられますように。

Mさんには役員としてのお時間をいただいたことに加えて、小教区事務室のボランティアとしてもご活躍いただき、本当にありがとうございました。神がMさんを祝福し、多くの恵みで満たしてくださいますように。

新年とはこれまで普段行ってきたことを新たにするとともに、また異なる角度から見つめる機会です。主は聖霊を通じて私たちの内面や(信仰や祈り)、外面も(親切な行いや愛徳の業)新たになるよう、招いておられます。

神の恵みにいつも満たされていますように。これが2019年を迎えるにあたっての年頭の挨拶です。

みなさまも良き年を迎え、心身も霊も健康でありますように。

クリスマスについて

ブラザー・エルマン・バムニ

クリスマスとは喜びの日であり、この喜びには意味があります。人間は日常生活の中で色々な経験をを行います。この経験のなかには、友達とのイベントなどがあります。クリスマスを待つには、さまざまな準備が必要です。家の掃除をしたり、シャワーを浴びたり、心の準備をしたりします。待つという経験は、クリスマスに向かうときに、特に大事なものです。もちろん、イベントや人によっては待つ方法が異なります。ブルキナファソと日本のように国によってクリスマスの過ごし方が違うこともあります。

日本でクリスマスを待つ方法はブルキナファソと異なります。子どもたちや親たちもブルキナファソとは違う環境にいるため、クリスマスを待つ方法が大きく異なるのは自然なことです。日本のクリスマスをみると、まず教会では色々な準備を行います。例えば教会の掃除や馬小屋の準備をします。また、日本の社会について言えば、コマーシャルが多く、たくさんの買い物をする季節になっています。子どもたちは12月にサンタクロースからプレゼントをもらうことを楽しみにしています。若者は、男性であっても女性であっても誰かと一緒にクリスマスを過ごすことが、大切なこととされています。彼らにとって、クリスマスとは恋人とロマンティックに過ごし、心地よい時間を過ごすことなのです。

一方、ブルキナファソでクリスマスは子どもたちの祝いといわれます。子どもたちは忙しくなりますが、親も夜に寝られないぐらい、頭に色々な問題を思い浮かべます。両親の収入が少ない場合、子どもを喜ばせるにはどうすればよいか、その解決は難しくなります。もちろん、無理に喜ばせようとするわけではありません。なぜなら、子どもたちはイエスの到来を楽しみにしているので、クリスマスの日に親たちからプレゼントをもらわなくても気にしない子たちが大勢いるからです。おそらく余裕のある家庭なら、その日に親たちは子どもたちに新しい服をあげたり、あるいは、ライスやスパゲッティ、肉を買って美味しいご飯を作って喜ばせるかもしれません。しかし、子どもたちは自分自身で馬小屋を建てて、イエスが生まれる日を喜びます。子どもたちはごちそうだけではなく、両親の気持ちに触れて感謝するのです。では、信仰からみるとクリスマスはどんな意味があるでしょうか。

キリスト教において、クリスマスまでの4週間は待降節と呼ばれます。私たちは信者として希望と平和、愛と喜びを待ち望みます。すなわち神が地上に到来し、御独り子を待つことが待降節であります。またクリスマスのお祝いでは、神の恵みを待ち望んでいた私たちのもとに神が降って来てくださったことを喜び祝います。私たちの救い主はこの世に到来するの

です。教会でのクリスマスを迎えるにあたって、さまざまな掃除や物の準備は必要なのですが、心の準備が一番大事なのです。平和の王のご誕生日のお祝いにあたって、私たちも周りに平和を与えるようになりましょう。そして、隣人に平和を与える前に、自分の心に平和を与えましょう。この平和を実践するように、お互いに愛しあいましょう。これらの教えにあらわれる愛は口先の言葉だけではなく、心からの愛のあらわれです。クリスマスは神が自らの愛する独り子をこの世に遣わしたことを記念する日なのです。ヨハネ3章16節に書かれている通り「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るため」なのです。クリスマスには、神があふれるほどの愛ゆえに愛する一人子を送ってくださったことを祝います。私たちもこの愛に満たされているからこそ、家族や友達、さらにはすべての人を愛さなくてはならないのです。

またクリスマスには、なんと言っても、貧しい人に注目しなければなりません。彼らは、神の国で大事にされています。イエスは彼らの救いのために来たのです。幼子イエス、インマヌエルは高級なホテルではなく家畜小屋を選んでお生まれになりました。カトリック教会の社会教説が教えるように、クリスマスのお祝いにあたって、私たちはキリスト教的ヒューマニズムを生きてもう一度考え直すべきだと思います。

皆さんもご存じのように、慈しみの特別聖年にあたって、全世界の信者へ向けて教皇フランシスコはメッセージをだし、その主なテーマは貧しい人のために何かをやらなければならないことでした。貧しい人の数は非常に増加しつつあります。しかし、この状態に対して、世界の社会システムでは貧困状態を解消できません。同じ地域に住んでいても、同じ教会に通っていても隣人を見なかったり、無視したりすることがあるのです。もちろん、このような社会は個人主義と資本主義の社会ですので、お金持ちでない人や肩書などをもっていない人は、無視されます。神の像としての人間ということを忘れてしまいます。しかしキリスト教信者として、何もしないままこの状態を見過ごしてはいけません。しかしながら、多くの人は自由に生き、あるいは相手の貧しさや苦しみが自分の邪魔にならないように、自分の家の壁を高くし、それも壁が高ければ高いほど良いと思っているのです。

一方でフランスの哲学者レヴィナスは、やらなければならない義務について「私たちは相手を邪魔してはならないという消極的な命令ではなく、むしろ、相手を助けなければならないという積極的な命令を受けている」と述べています。すなわち、幸せや自由になるといった自己の存在する世界の価値を求めることに先立って、他者とのかわり他者に対して負う義務に生きることが必要なのです。福音も同じことを教えています。同じく隣人を大事にしなければなりません。私たちは、他

者を助けるにあたって、色々な質問をします。例えば、それが家族なのか、友達なのかと考えます。しかし、レヴィナスによると、「他者は私の世界に入る前に私の助けを要求しているのです」。つまり、良いサマリア人(ルカ 10:25-37)が、見ず知らずの、それも敵対関係にあったユダヤ人を助けたように、私達も生きることが求められているのです。

以上に述べたように、あらためて貧しい人を助けるには、お金だけではなく、愛情や心、思いやり、相手の人格を尊敬することが重要です。教皇フランシスコによると、「現代社会の中で貧しさをはっきりと定義づけるのは非常に困難です」。例えば、最近、困難な環境で生活をしていてホンデュラスからアメリカへ向かった難民の様子を見ると、これについては全世界の人々が協力しなくてはならないことがわかります。このような難民を見ると、人間の尊厳はどこにあるだろうかと考えざるをえません。貧しい人の状態を変えるための一つの方法として、福音に戻る必要があります。「お前たちは、私が飢え

ていた時に食べさせず、のどが渇いたときに飲ませず、旅をしていた時に宿を貸さず、裸の時に着せず、牢にいたときに、訪れてくれなかった」(マタイ 25:42)。この言葉は私達を驚かせるものです。一体いつ、どこで私達は主を無視したのでしょうか。主はお答えになります。「はっきり言うておく、この最も小さい者の一人にしなかったのは、私にしてくれなかったことなのである」(マタイ 26:45)。この神の言葉を真剣に受け止め、他者に対する義務に生きることを実践すれば、人間の尊厳は尊重されることになるのでしょうか。という理由で、彼らに対しては、「連帯(Solidarity)、連帯感(Feeling of solidarity)、連帯意識(Sense of solidarity)」を持たねばならないからです。そうすれば、私達の心にイエスをとどめることができるのです。これはクリスマスに行くことだけではなく、信者としての私達の作り上げる新しい文化の特徴なのです。つまり、クリスマスは毎年 12 月 25 日にだけ祝うのではなく、日々の日常生活の中で行うべきことなのです。

京都南部地区合同堅信式

ヨハネ K・T

2018 年 5 月 20 日 日曜日、聖霊降臨の主日の午後北白川教会で、大塚司教様の司式により京都教区京都南部地区の合同堅信式が行われました。当教会からは小林千沙さん、西山旅人君、水野聖心さんの 3 名が堅信の秘跡を受けられました(式全体では、今回同時開催となった滋賀ブロックの受堅者を含め 27 名の受堅者)。おめでとうございます。ミサは、大塚司教様、ウィリアム神父様、ボアベール神父様、福岡神父様、菅原神父様、カマチョ神父様の司式で捧げられました。

堅信式に先立って、洛北ブロックでは、中、高校生を中心とした受堅者の方々のために望洋庵、衣笠・高野・北白川教会で計 4 回の堅信準備クラスが開かれ、北白川教会の受堅者の皆さんも参加して準備を進めました。堅信式では、南部地区各教会や修道会から大勢の皆さんが参加され聖堂が一杯になりました。ミサのなかでは、大塚司教様より、信者の中核として布教などしっかり活動してくださいという旨の激励の言葉がありました。ミサの後は茶話会を行い受堅者のお祝いを皆でいたしました。自己紹介やゲームをやるなど南部地区のいろいろなブロックから集まった方々の懇親もできたのではない

かと思います。また、いろいろな方から「北白川教会は良い環境でお祈りがしっかりできますね」、「これから、またミサに与かりに来ます」など北白川教会を好きになったとの言葉もいただきました。

昨年までは教区全体の合同堅信式が河原町教会で行われていましたが、今年からは 5 つの地区・ブロックごとに合同堅信式が行われることに決まりました。そして、京都南部地区では各ブロックが持ち回りで担当すること、新制度での初めての堅信式を洛北ブロックが担当し、北白川教会で開催することとなったのです。初めはたいへんとまどいしましたが、洛北ブロック所属の衣笠、西陣、高野、小山各教会の典礼部の方々と協力して準備をすすめ、当日は北白川教会の皆様にも沢山のご協力をいただき無事終えることができました。皆様には、心からお礼を申し上げます。



ブロック	洛北				洛東		京丹	山城			滋賀	
教会	北白川	衣笠	高野	西陣	河原町	山科	桃山	西院	田辺	宇治	青谷	草津
受堅者	3 名	1 名	5 名	2 名	6 名	1 名	1 名	1 名	1 名	1 名	3 名	2 名

出会は御手の中

マリア・フランシスカ T・Y

何事にも時があり、
天の下の出来事にはすべて定められた時がある。

(コヘレト 3.1)

「洗礼式の日がちがが決まったよ！ 来てね」という小山教会の友だちからのメールを見た瞬間、私は思わず「神様、ありがとう！」と飛び上がって喜びました。

私はつい最近まで高齢者介護施設で働いていたのですが、一身上の都合で辞めることになりました。施設での仕事の最後の日のことです。廊下でご高齢のご婦人と椅子に座ってお話しをすることになりました。話をしているうちに、普段はとても穏やかで物静かなご婦人がはっきりした口調でおっしゃったのです。「あんた、洗礼受けられてええなあ！ 私、受けられへんかった」。

私はご婦人のその言葉に新鮮な驚きを感じました。これまでは、カトリックの洗礼を受けていると言うと「へー」と驚かれたり感心されることはあっても羨ましがられることはなかったからです。

ご婦人は、ご実家の近くに教会があったこと、ご自分が実家を出てお嫁に行ってから、お母様と妹さんが洗礼を受けられたこと、ご主人様が亡くなられてから洗礼の勉強を始めたものの病気のために続けられなくなったこと、ご自分が亡くなったときには神父様に頼むように息子さんに言うことなどを一気に話されました。私は、ご婦人の話を伺って、「そんなに望んでいらっしゃるなら、洗礼のお恵みをいただいて、毎日神様を賛美して過ごされたら、どんなにか幸せだろう。何とかして洗礼が受けられないものか」と居ても立っても居られない気持ちになりました。それに、今日を最後にご婦人にはもう施設でお会いできなくなると思うと、とても苦しい気持ちになりました。

ご婦人に聞いてみると、妹さんが小山教会にいらっしゃることがわかりました。そこで、小山教会の友だちに尋ねたところ、なんとすぐに妹さんを見つけることができたのです。妹さんは「お姉さんがそんな思いだったとは知らなかった」

とびっくりされたそうです。早速、大塚神父様にご相談され、洗礼のための勉強や洗礼式の日取りが決まりました。ドミノ倒しのように一気に事が進んだのです。

洗礼式には、ひ孫さんまで総勢 17 名のご親族が小山教会に集まりました。妹さんはこんなにおめでたいことは何年ぶりかで、そのために兄弟姉妹が集まることできてとても嬉しいとおっしゃってくださいました。初めて教会にいらした小さなひ孫さんたちが、珍しそうに教会の中を眺めたり、神父様のご様子をじっと見たり、神妙な顔をしているのがとてもかわいらしかったです。ご婦人は高齢のため目が不自由なのですが、この日のために一生懸命にお祈りを覚え、十字を切る練習をされたとのことでした。緊張した様子で車椅子に座っておられたのですが、受洗後、皆の方に車椅子の向きを変えられると、頬がピンク色に染まってとても美しく幸せいっぱいのご様子でした。80 歳を過ぎての受洗で、たくさんのご親族に囲まれての記念撮影は見ている者も幸せになりました。

私は、このご婦人の洗礼式に出席させていただいて、神様は、心から願い続ける人を放っておかない方だと改めて確信しました。また、神様は、人を使って、人のつながりの大切さ、温かさを教えてくださる方なのだと思いました。神様は、人の力を借りなくても何でもおできになる方です。それなのに、私のようなものをほんの少し使ってくださいったことに心から感激し、嬉しく思いました。

このご婦人と私が出会ったのは、ただの偶然ではなく、聖霊が働いたのだと思います。すべては神様の御手の中、神様のご計画の中で生かされていることを知ったお恵みいっぱいの洗礼式でした。



役員退任あいさつ

教会はキリストの支配する王国

N・N

4世紀の北アフリカに生きた教父アウグスティヌスの大著『神の国』には地上の教会を論じた箇所があります(第20巻第9章)。このなかでアウグスティヌスは教会とは何かを考えるための実に深い考察を展開しています。

この地上の教会はキリストの到来とともに始まり、今もキリストが治めているものです。しかし、その中には主の教えを守らない者と、その教えを守り、かつ他の人々にも教える者がいるとアウグスティヌスは述べています。イエスによれば、これは「最も小さな者」と「大いなる者」であり(マタイ5、9)、この二種類の人々がともにいるところが現在の教会なのです。言い換えると、悪しき者がいなくなるような教会とは世の終わりに現れるような教会にほかならず、現在の教会の姿ではないのです。「毒麦はキリストとともに支配しているわけではないけれども、教会のなかで小麦とともに成長しているのである」とアウグスティヌスは断言し、教会が良い麦だけでできあがっているわけではないことに私たちの注意を向けています。

アウグスティヌスの思索は現在の教会を生きる私

たちに多くの課題を突きつけています。教会に集う人々のなかで、司祭や修道者も含めて、誰が良い麦であり、誰が悪い麦であるのかは終わりの時にいたるまでわかりません。「その時」にいたるまで私たちは互いに忍耐し、お互いに忍耐を積み重ねることによって徳を競いあい、「その時」にはすべての者が良い麦となるよう招かれているのです。神の忍耐心は限りないもので、すべての人が良い麦となるまで、神は待っておられます。

二度目となる教会役員を終えるにあたり、アウグスティヌスの思想の一端をご紹介します、教会の諸姉諸兄に感謝と御礼を申し上げます。

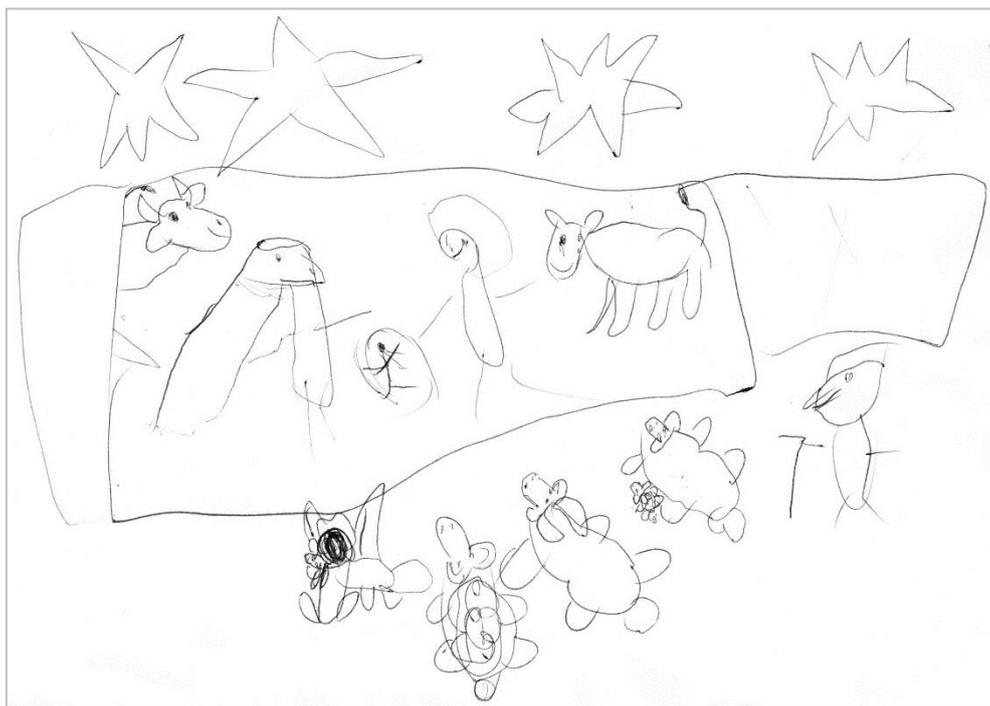
神様からのプレゼント

マリア・フランチェスカ J・M

ウィリアム神父様がニコニコ笑顔でおっしゃいました。「向井さん、神様からのプレゼントがあります」。私はまず「ありがとうございました」とお礼を申し上げました。それからお尋ねしたプレゼントの中身は、次期教会役員ということでした。

こうして始まった役員としての二年間でしたが、この度、任期満了を迎えることができました。まことに、この二年間は「神からのプレゼント」であったと思います。神様に感謝、そして支えて下さいました皆様方に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

(イラストはM・Pちゃん)





編集後記

主の御降誕、おめでとうございます。毎年、12月に入る頃には、街はクリスマスのイルミネーションが始まり、世間の誰もがクリスマスが近づいていることを知るようになります。華やかで賑やかな雰囲気、多くの人は、クリスマスは何か嬉しい、ワクワクするような楽しいものという思いを抱いているように思います。まだキリスト者でなかった頃、私が抱いていたイメージもそうでした。

しかし、キリスト教に出会って知ったクリスマスは、ワクワクするような楽しいメッセージとは、随分違いました。マリアは、ヨセフと共にバツレヘムに向かっていた旅の夜、泊まる場所もなく、馬小屋でイエスを出産し、誕生したイエスは飼い葉桶に寝かされた。それは、暗さ、悲しさ、貧しさや、辱めの体験でもあります。その只中にイエスは光をもたらすために来られたということでした。クリスマスは、勿論、喜びの時ですが、そのかたわらに、暗さや、貧しさや、辱めの中に置かれ、クリスマスを祝うことができない人が私たちの周りにも存在することに思いを馳せたいと思います。その人たちに、クリスマスの喜びが伝わることを祈りたいと思います。

重ねて、主の御降誕おめでとうございます。この光に導かれて、来る新しい年も平和な良い年になりますように、お祈りします。

バプテスマのヨハネF・A

カトリック聖ヴィアートル北白川教会
2018年12月24日発行
ホームページ：<https://www.stviator-kcc.org/>